

図書館へいこう!



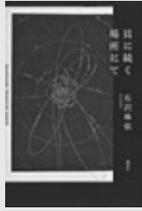
2021上半期 芥川賞・直木賞 そろえています!

芥川賞W受賞

『貝に続く場所にて』

石沢 麻依 / 著

ドイツで暮らす私の元に、2011年3月の震災で行方不明になったはずの友人が現れる。コロナ禍が影を落とす異国の街に、9年前の光景が重なり合い…。静謐な祈りをこめて描く鎮魂の物語。



『彼岸花が咲く島』 李 琴峰 / 著

記憶を失くした少女・宇実が流れ着いたのは、ノコと呼ばれる指導者が統治し、男女が違う言葉を学ぶ島だった。不思議な世界に満ちた中編小説。



直木賞W受賞

『テスカトリポカ』 佐藤 究 / 著
メキシコの麻薬密売人バルミロと臓器売買コーディネーターの末永は、新たな闇ビジネスを実現させるため日本へ向かう。少年コシモは知らぬ間に彼らの犯罪に巻き込まれ…。



『星落ちて、なお』 澤田 瞳子 / 著
不世出の絵師、河鍋暁斎が死に、これまで家の中で辛うじて保たれていた均衡が崩れた。一門の行末は、娘とよ(暁翠)の双肩にかかっているのだが…。激動の時代を生き抜いた女絵師の一代記。



話題の新着本

『霧をはらう』 栗井 脩介 / 著

入院中の4人の幼い子どもたちにインスリンが混入され、2人が殺された。逮捕されたのは、生き残った女兒の母親。人権派の大物弁護士らと共に、若手弁護士の伊豆原は勝算のない裁判に挑む!



『たまごの旅人』 近藤 史恵 / 著

念願になって、海外旅行の添乗員になった遙。アイスランド、スロベニア、パリ、西安で、ツアー参加者それぞれの特別な瞬間に寄り添う。ところが2020年、予想外の事態が-



『硝子の塔の殺人』

知念 実希人 / 著

雪深き森で、燦然と輝く硝子の塔。ミステリを愛する大富豪の呼びかけで、一癖も二癖もあるゲストたちが招かれた。この館で次々と惨劇が起こる。謎を追うのは名探偵と医師-



『能面検事の奮迅』

中山 七里 / 著

学校法人荻山学園に対する大阪・岸和田の国有地払い下げに関し、近畿財務局職員の収賄疑惑が持ち上がるが…。大阪地検一級検事・不破俊太郎が、政治とカネの闇にかき消された真実を暴く。



今月のBEST本

(7月の貸出回数上位本)

『余命3000文字』

村崎 羯諦 / 著

「あなたの余命はあと3000文字きっかりです」ある日、医者から文字数で余命を宣告された男に待ち受ける数奇な運命とは? 5分で読めて、あっと驚き、わっと泣ける26編を収録。



9・10月のイベント情報

- 9/11 14:00～ おはなし会
- 9/18 14:00～ おはなし会
- 9/25 10:00～ マスクプレイ・オペレッタ
こぶとりじいさん
- 10/2 14:00～ おはなし会

新型コロナウイルス感染症の影響により、中止になる場合がございます。

